コイ目コイ科

アブラボテ

Tanakia limbata（Temminck and Schlegel, 1846）

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内では、中西部の一部の水域にのみ生息する。生息数も多くはない。

【概要】

全長４－７㎝。繁殖期は４～６月頃で、オスには追星と重油色と黒色を基調とした婚姻色があらわれる。メスでは腹部から産卵管が伸び、これを用いて二枚貝の鰓内に産卵する。本種を含むタナゴ類の繁殖には、産卵母貝となるイシガイ目の二枚貝の生息が不可欠である。また、二枚貝の繁殖時には、グロキディウム幼生が寄生する底生魚類の存在がなければならない。すなわち本種が生息するためには、これらの生物たちが共存した多様な自然環境が必要である。また、貝から浮出した仔稚魚は水生植物などがある岸辺付近で群れを形成して生活するため、このような環境も本種にとって重要である。

【県内での生息地域・生息環境】

県内中西部の限られた自然環境が良好な水域に生息する。

【存続を脅かす原因】

河川や水路の改修、ヘドロの堆積や水質悪化などによる二枚貝の減少。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○											○						○							

コイ目コイ科

ズナガニゴイ

Hemibarbus longirostris（Regan, 1908）

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息地域が限られ、個体数も少ない。

【概要】

国内におけるニゴイの仲間は、本種とニゴイ、コウライニゴイの３種が知られている。コイに似るが、１対の口ひげ（コイの口ひげは２対）や低い体高、長い吻などで比別できる。本種は、ニゴイよりもさらに頭と吻が長く、体色は淡黄色で、背面と体側に褐色の斑紋と小褐色点が散在する。全長約20㎝で、ニゴイよりも上流域の流れのゆるやかな底層近くに生息している。産卵は５～６月で、メスの方がオスよりも尻びれが長くなり、産卵直前に水底の砂をかき混ぜる。カゲロウなどの水生昆虫の幼虫をおもな餌としている。近畿地方以西の本州の河川に不連続に分布している。

【県内での生息地域・生息環境】

本種は県内では県中部の限られた河川のみ生息が知られている。河底が岩、礫、砂と多彩に組み合わさった清流を好む。

【存続を脅かす原因】

河川改修などによる生息環境の悪化や競合種の増加など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○											○													

コイ目ドジョウ科

サンインコガタスジシマドジョウ

Cobitis minamorii saninensis Nakajima, 2012

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

最近になってシマドジョウ属の分類が整理しなおされたことによる。

【概要】

従来、スジシマドジョウ小型種点小型（*Cobitis* sp. 2, subsp. 3）と称されていたもの。全長５－７㎝で、体はやや細長く、シマドジョウよりも小型である。体側の斑紋は雌雄で異なる。オスが線列型で、典型的なスジシマ型であるのに対し、メスは点列型か破線型で、シマドジョウの斑紋に似ている。平野部の河川の中・下流や農業用水路、浅所の砂泥底に棲む。砂泥底にひそむユスリカの幼虫などの水生昆虫やミミズなどを食べる。繁殖期は６～７月と考えられるが、詳細は不明である。兵庫県の岸田川から本県の神戸川までの山陰地方に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部を流れる砂泥底の河川や用水路。

【存続を脅かす原因】

河川改修などによる生息環境の悪化。また、観賞魚として乱獲されるおそれがある。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○												○						○							

ナマズ目アカザ科

アカザ

Liobagrus reinii Hilgendorf, 1878

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵10

島根県島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

本種の生息にとって清流であることが必須条件である。

【概要】

全長７－10cm。日本の淡水魚では珍しい赤色系の体色をもつ小型のナマズである。８本の口ひげがあり、ひれは棘状になっていて、不用意に捕まえると刺される。水のきれいな川の中流から中上流の流れのある石の下に潜む。産卵は、５～６月に流れのかなり早い瀬の石の下に100～120個の卵がゼリー状に産みつけられる。日本固有種で、宮城県･秋田県以南の本州、四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

中規模以上の河川の清流域に広く分布するが、もともとその分布密度は低い。近年は生息環境の悪化に伴って、姿を見なくなった河川も少なくない。

【存続を脅かす原因】

ダム・堰堤の他各種の河川工事によって、清流が減少し、本種の産卵場所や餌生物の生息環境が失われてきたことによる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○				○						○													

スズキ目カジカ科

アユカケ（カマキリ）

Cottus kazika Jordan and Starks、1904

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

かつては県内の多くの河川中流域に普通に見られた。しかし、現在では生息域・生息数ともに減少している。

【概要】

全長20cm、灰褐色の地に４本の暗色横帯があり、他のカジカ類同様、うろこはまったくない。体型は、ハゼ類に似るが、ハゼ類（ドンコは除く）のように腹びれは吸盤状になっておらず、分離している。河川中流域の瀬の礫底を好む。幼魚期はおもに水生昆虫を食べ、10cmを超えるとアユなどの小魚を食べる。日本固有種で、本州の日本海側に多く、福井県ではアラレガコと呼ばれ、生息地が天然記念物に指定されている。

【県内での生息地域・生息環境】

県内のほとんどの河川の中流域に生息しているが、川を遡上する力は弱く、多くの河川では堰堤の存在により、本来の生息域ではない河口域に生息している場合が多い。江の川河口域では産卵場が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生息に適した砂礫帯の河床の減少、遡上を妨げる堰堤の建設など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○									○						○						○	

スズキ目カジカ科

ウツセミカジカ（小卵型･中卵型:両側回遊型）

Cottus reinii Hilgendorf, 1879

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

河川の水質や自然環境が良好なところに生息するが、すべての生息地において生息環境が悪化し、個体数が減少している。

【概要】

県内には、カジカ（大卵型：河川陸封型）とウツセミカジカ（中卵型：両側回遊型）が生息していると考えられるが、詳細な調査は行われていない。ウツセミカジカ（中卵型：両側回遊型）の稚魚は夏場に河口域で数多く観察される。全長７－９cmで時に12cmに達する。瀬の砂礫底や礫底に生息する。体色は環境によって異なり、灰褐色から暗褐色まで変化に富み、体側に４～５個の暗色の斑紋がある。ハゼ類に似るがうろこがないことや頬に棘を有することなど区別できる。水生昆虫や甲殻類などを食べる。産卵期は３月中旬から６月中旬で、川の瀬の石の下側にオスが巣を作り、メスが卵を産む。

【県内での生息地域・生息環境】

県内において生息が確かめられているのは斐伊川をはじめとする大型河川の中下流域。

【存続を脅かす原因】

河川改修に伴う人工護岸や遡上を妨げる河川構築物、ダムによる流水量の減少など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○										○						○						○	

スズキ目ハゼ科

オオヨシノボリ

Rhinogobius fluviatilis Tanaka, 1925

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵10

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

水量が豊富で流れの早い場所に生息し、生息数もあまり多くない。近年、減少傾向にある。

【概要】

本種は従来「ヨシノボリ黒色大型（*Rhinogobius* sp. LD）」と称されていたもので、全長は約８㎝、時に10㎝を超える個体もみられる。全体的に黒味が強く、特に繁殖期のオスはほとんど黒一色となる。メスと未成魚は淡褐色の地に濃褐色の不規則の斑点がある。頬には斑紋がない。識別にもっとも有効な特徴として、胸びれの根元の明瞭な１個の黒色斑がある。また、尾びれの基部に上下に長い黒色斑が１個あり、これも本種の特徴である。北海道を除く日本全国に分布し、雑食性で付着藻類や水生昆虫などをおもに食べる。

【県内での生息地域・生息環境】

県内においては、比較的大型の河川に生息する傾向が強く、高津川など西部地方の河川で生息数が多い。県中央部から東部にかけての河川では、生息数が少ない。

【存続を脅かす原因】

河川改修などに伴う生息環境の悪化など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○				○						○													